

守山市ほたるの森資料館整備設計業務 公募型プロポーザル 審査講評

1 各提案に対する評価の概要

守山市ほたるの森資料館は、建物および各種設備が経年による老朽化が進み、安全面、利用面、運営面での課題を抱えていたことから、今後も多くの市民に愛される新たな資料館を運営するため、建て替える方針とし、設計業者の選定のために令和8年3月9日に守山市ほたるの森資料館整備設計業務を公募型プロポーザル方式で公告を実施した。

その結果、84者から参加表明書の提出があり、守山市ほたるの森資料館建替に係るプロポーザル審査委員会（以下「本委員会」と略）は、令和8年4月14日に応募者84者の提出書類を守山市ほたるの森資料館整備設計業務公募型プロポーザル実施要領別紙資料5「評価基準」（以下「評価基準」と略）に沿って審査を行い、各応募案に関する詳細な議論を経た後、各委員による評価点と実績等による加点を総合し、上位7者を第一次審査通過者とした。

次に、第二次審査では、第一次審査を通過した7者から提出された技術提案書、公開プレゼンテーションおよびヒアリングの内容を踏まえ、評価基準に沿って審査を行い、慎重かつ熟慮を重ねた審議の結果、一次審査の点数を含めた総合点が最も高い株式会社岩瀬諒子設計事務所を優秀者として選定した。

まずは参加表明をいただいた84者もの応募者の皆様に心より感謝申し上げます。

続いて、本委員会における各委員の評価や意見を抽出・整理し、その概要を以下に記す。

(1) 優秀者（契約予定者）の評価概要等

受付番号1番：株式会社岩瀬諒子設計事務所

野外ステージの丘と園路そのものを施設化し、分断されている既存野外ステージとほたるの森をつなぐことで、敷地全体の賑わいや活動を促す提案である。

基本計画の内容を深く理解し、配置を検討するプロセスの中で諸条件を丁寧に検証され、敷地全体を一体的に捉えている点、来訪者の入りやすさ、公園からの動線、管理・バックヤードの使い勝手も考慮されており、子ども連れが訪れたいくなる開放感や利用者目線から、シンプルに楽しそう、訪れてみたいと思わせてくれる点が高く評価された。

また、丘の一部を切り開き見通しをよくすることで広い活動エリアを確保し、ファサードを自然に溶け込ませつつ緑化した屋上や丘側に突き出たボリュームは、円形広場側にも変化を与え、広場のさらなる活用について期待ができる。

ほたる河川の木道について、改修以後のメンテナンス時におけるの土壌負荷抑制に関する提案や、ホタルやカワニナに係るワークショップについての年間を通じた具体的な提案を行うなど、既存の生態系や環境意識への細やかな配慮もなされていた。

全体として、建築とランドスケープの関係性の構築が最も表現できており、案の

実現性が高く、様々な観点で行き届き、合理的ですぐれた提案であったため、新たなほたるの森資料館にふさわしい最適な設計者と評価された。

一方で、屋上の落下防止柵について自然と調和する意匠と機能性を両立させる工夫や、提案の強みである「駆け回ることでできる屋上緑化」は、現在の芝生の管理と面積的には変わらないが維持管理の分担等に課題が残る。これらを建設事業費全体のコストコントロールも含め、今後、設計段階においてさらに検討されることを期待する

(2) 次点者（次順位契約予定者）の評価概要等

受付番号 2 番：株式会社御手洗龍建築設計事務所

ほたるの森と野外ステージの中間に建物を配置するだけでなく、円形広場内と建物直下に水辺を作り、ホテルを含む生態系や環境そのものを敷地全体に引き込むという提案である。

大きく湾曲し、勾配と軒の出により変化を見せる大屋根と、円弧を描きつつ長さを生かした建物形状は、防風と日射と湿度をコントロールする役目も果たしている。建物を高床式とし、床下空間に水辺を引きこむことで、既存の土壌や生態環境に配慮しつつ、建物の直下にホテルの生息に適した湿潤環境を作り上げようとする、他の提案にない独創的な提案が評価された。

また、円形広場にビオトープを設け、そこからほたる河川までを土のろ過装置により敷地全体を使った生き物の生態系に適した自然環境の学び舎とする点は、ホテルや生態系への熱意を感じられる提案である。また、建物は市民運動公園としての木陰や休憩所としてもよく考えられており、運営や管理面についても配慮がなされている点が評価された。

一方、高床式にすることで利用者が施設への入りにくさを感じる可能性がある点や、河川からのポンプアップの可否によりビオトープが実現できなかった場合、野外ステージと円形広場の魅力が半減してしまう点について疑問視された意見もあった。また、屋根の勾配変化が平面プランにあまり活かされていない点や、コストコントロールで高木を1mの若木から植えるという提案はしっかり根付くメリットもあるが、ランドスケープが完成するのに相当の年月を要する点についての懸念点も上げられ、優秀者の提案には僅かに及ばなかった。

(3) その他提案者の評価概要等（受付番号順）

ア 受付番号 3 番：湯澤ON設計共同体

「3つの円環が紡ぐ自然の知と循環」をテーマに、既存の円環（屋外ステージ）に2つの円形広場を加え、観察・交流・滞留・学習が重なり合う回遊性の高い空間形成が提案された。ロングファサードはほたるの森への光の侵入を抑えるとともに、テラスを休憩・交流・環境学習やホテル観察の場として活用する提案が評価された。

一方で、新たな市民運動公園の顔となる建築ファサードの魅力や、建築とほたるの森との関係性が十分に示されておらず、平面プランとランドスケープ

(円環)の重なりが生み出す相乗効果の実現性が不明瞭である点に課題が見られた。このため、総合評価において優秀者および次点者には及ばなかった。

イ 受付番号4番：株式会社タトアーキテクト

敷地に現存する円形や弧の広場、園路、植栽帯の特徴を読み替え、そこに新たな資料館を設置することで水辺、公園、まちを横断的に縫い直し公園全体を学びの場として再構成することを目指した提案である。

建物は来訪者視線の使用しやすさについて、家具レベルまでしっかりと検討され、設計者の強みが生かされており、コスト把握も正確で堅実で実現性が非常に高い。運動公園の利用者が休憩場所としても利用しやすく、事務室から全体を見渡せる設計など、双方の動線にも細かな配慮が行き届いている点が評価された。

一方で、建物とほたるの森との関係性がやや薄い点や、新たな市民運動公園の顔としての建築的インパクトやユニークさについて、総合的に優秀者および次点者に及ばなかった。

ウ 受付番号5番：横井・佐瀬+TAMA設計共同体

建物を含む敷地全体に張り巡らされた回遊する散策路（アダプテーションパス）と、学習室（こあがりラボ）を中心に回遊性のある平面プランを持ち、設計中だけでなく竣工後も調査（リサーチ）と順応（アダプテーション）を繰り返していくことを強みとした提案である。高さに変化をつけ森の中を歩けるブリッジの提案が魅力的で、平面プランについても「こあがりラボ」が可愛らしいと評価された。

一方で、調査を含む基本設計、その後の実施設計を含む設計業務期間全体のスケジュールの見通しに対する質疑回答に不安が残った点、アダプテーション（順応・変化）するものと、コンセプトの軸からブレずに変化しないものの明確なイメージについて、設計者の理解不十分だと感じる等の懸念点があり、総合的に優秀者および次点者に及ばなかった。

エ 受付番号6番：Atelier tomato+HaMAo 共同企業体

ほたるの森と野外ステージ、公園をつなぐ役目を担いつつ、遠景では風景に溶け込み、近景ではそれぞれの場所に合った心地よい空間を生み出すシンボリックな大屋根をもつ建物の提案である。

敷地内のどこに配置をするかという課題に対して、棟を境に屋根形状を変え、風景との相互作用を意図したアプローチをよく検討された案であると評価された。

一方で、平面計画や空間構成に不安が残る点、大屋根の軒先寸法が一定で周辺環境との繋がりを形成できるか疑念が残り、壁面配置を見ると意図した緑化効果が得られない可能性があることが指摘された。地盤面を上げ、虫と同じ視線とするというアイディアは評価されたが、半地下化する工事や大屋根面積の建設コスト・工期への懸念も指摘された他、森や生態へのアプローチがある一

方で軒下は緑化しない点で関連性が弱いと指摘され、総合的に優秀者および次点者に及ばなかった。

オ 受付番号7番：株式会社工藤浩平建築設計事務所

ホテルを「守る」対象から「共存」の対象に変化させる環境づくりとして、自然物との関係により、市民運動公園内だけに留まらず、まち全体と守山のまちづくりまでを見据えたコミュニティセンター的な提案である。野外ステージの中央に建物を配置し、屋根全体を緑化し自然に受け込ませるという唯一の提案であり建築的にもインパクトが大きい点が評価された。

一方で、野外ステージのマウンドに隠れる形状であるため、建物自体が閉鎖的になる可能性や、ほたるの森との連続性・関連性が薄いとの指摘があった。また、雑草による屋上の粗放管理について、予算や人手が少ない中でのメンテナンスの実現性に懸念が指摘され、総合的に優秀者および次点者に及ばなかった。

2 審査委員会の総評

本プロポーザルにおいては、上位7者が当資料館を実際に訪れていただき、現状の課題解決のため管理面や運用面だけでなく、ほたるの森資料館の機能増進と合わせて市民公園の魅力づくりや生物多様性に配慮して様々な相互作用を意識した非常に優れた提案が寄せられましたこと、まずは提案者の皆様に深く敬意を表すとともに、心より感謝いたします。

上位7者からの提案は、守山市における今後のほたるの森資料館のあり方や建替え後の周辺環境とのつながりについて、鋭い視点から問題提起されており、建替えによって新たに生まれ変わるための、貴重な意見を得ることができました。また、いずれの提案も熟考されており、甲乙つけがたい秀逸な提案でありました。

本委員会においては、各委員がさまざまな専門的な観点から審議を重ね、優秀者を本事業者の設計者として最適なものとして評価しましたが、優秀者の提案内容においても、再度、課題を整理することで、より良い計画案に練り上げられるものと確信しています。

令和8年6月12日

守山市ほたるの森資料館建替えに係るプロポーザル審査委員会

委員長 忽那 裕樹